

経営比較分析表

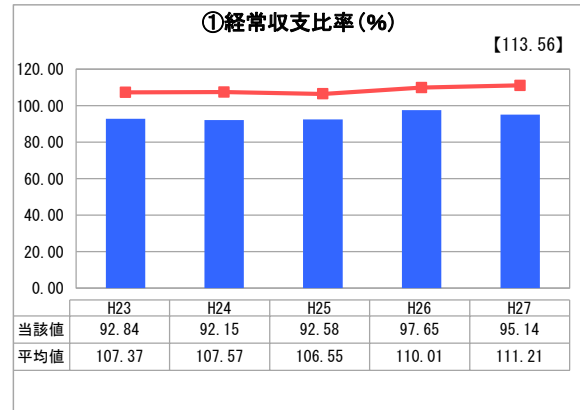
埼玉県 川島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	74.90	99.94	1,930

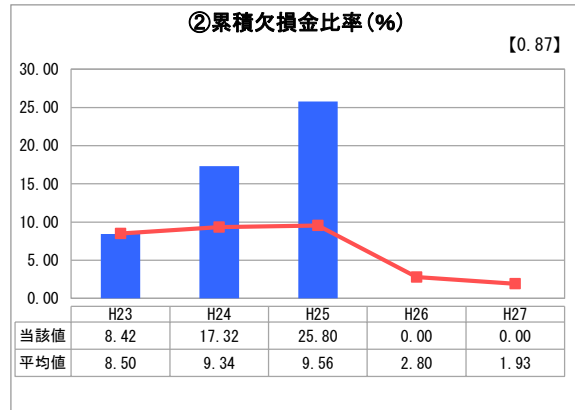
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
21,028	41.63	505.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
20,943	41.72	501.99

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成27年度全国平均

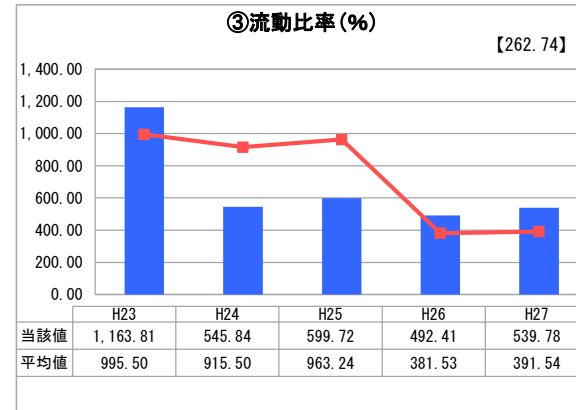
1. 経営の健全性・効率性



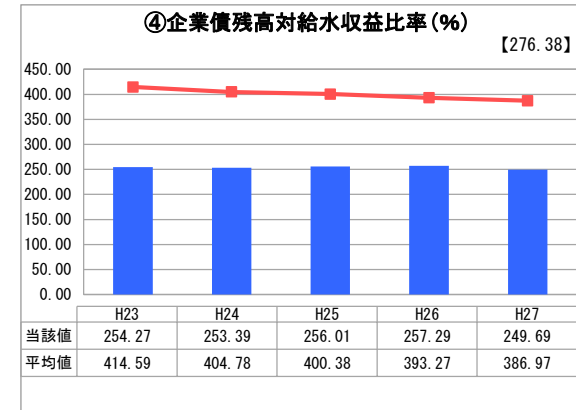
「経常損益」



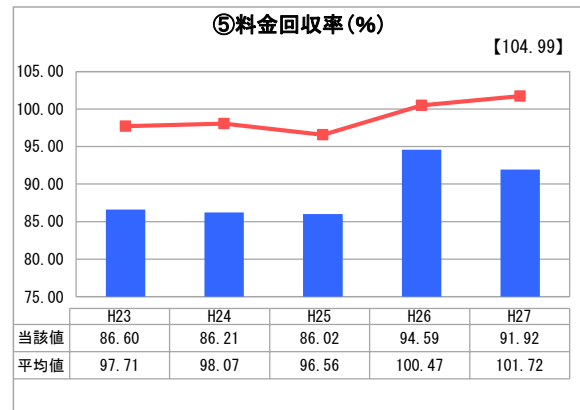
「累積欠損」



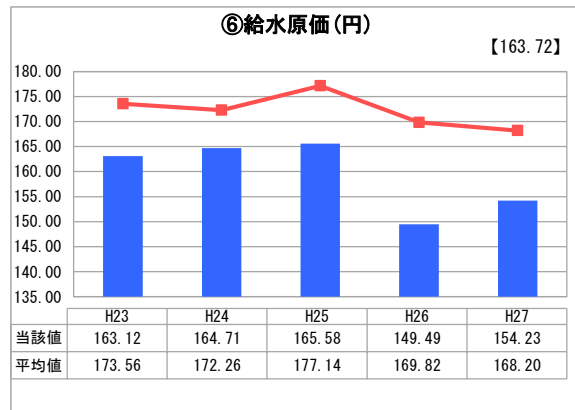
「支払能力」



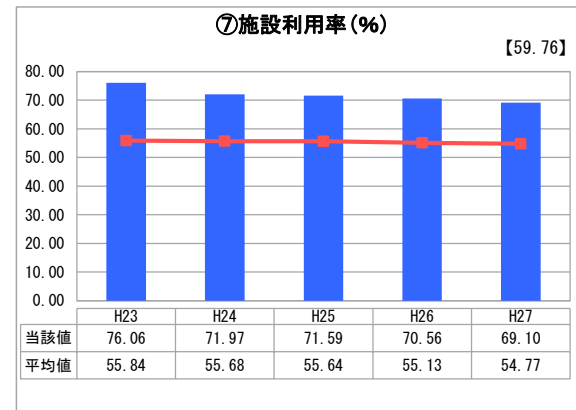
「債務残高」



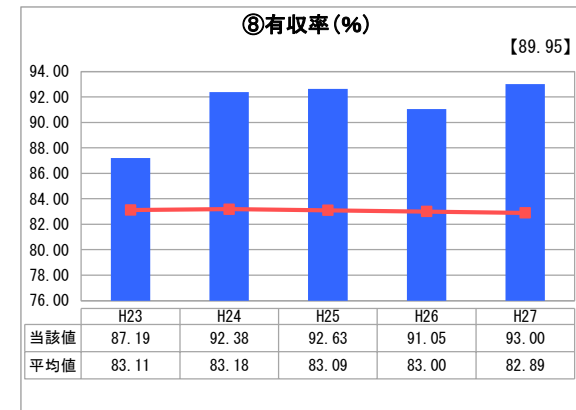
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

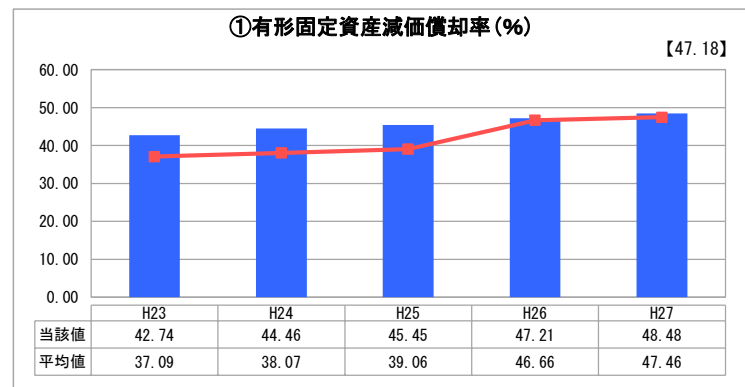


「施設の効率性」

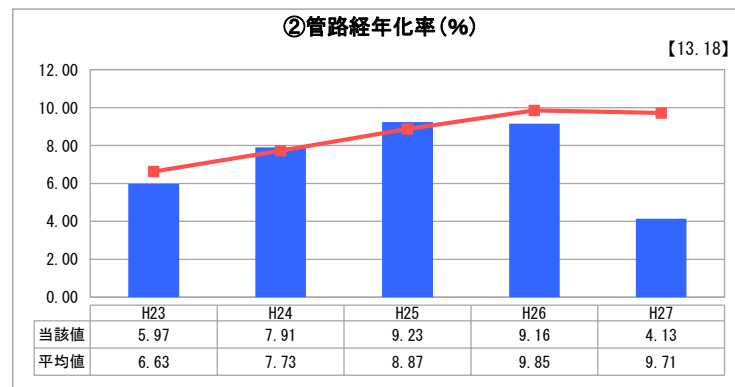


「供給した配水量の効率性」

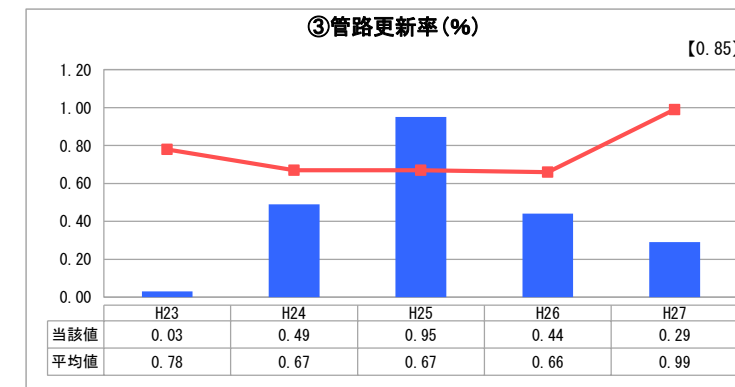
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

グラフ①及び⑤を見ると、給水収益(水道料金)などの収入が、業務活動にかかる支出(減価償却費を含む)を1割程度下回っています。

グラフ④は、施設更新などの財源にするため借入した企業債の残高と、給水収益の対比を表すものです。企業債は数十年かけ分割して返済しますが、この割合が高くなると返済額が膨らみ、将来の経営を圧迫することになります。ここ5年間は、大きな変化はありません。

グラフ⑦は浄水場などの施設能力と運転量の比較で、この割合が高すぎると、緊急の配水量増加などに対応できない恐れがあり、低いと、施設の稼働時間が少ない(施設が無駄になっている)ことになります。配水量の減少を反映し、次第に低くなっています。

グラフ⑧では、以前は配水量の2割近くが漏水などにより無駄になっていましたが、漏水調査と修繕により、改善されつつあります。

なお、グラフ②③⑥について、平成26年度で数値が大きく変わっていますが、会計基準改正による欠損金処理や流動負債の内容、給水原価計算方法の変更などがあったためです。

2. 老朽化の状況について

グラフ①及び②の数値の上昇は、浄水場や配水管など施設の老朽化が進んでいることを表しています。

グラフ③は、管の総延長に対し入れ替えた延長の割合を表しています。施工場所や工事の規模・目的などが年度によって異なるため、数値に変動がみられます。老朽化対策や耐震補強のため、計画的に工事を行うようになると、数値が上昇し、毎年ほぼ一定の量を示すようになると考えられます。

全体総括

過去の大規模な施設更新に伴う減価償却費の増加などから、支出が収入を上回る状態が続いています。一方、最近では施設の大幅な更新をしていないため、企業債残高などは大きく増えていません。

浄水場や配水管などの施設は、定期的に更新しないと故障や漏水といった危険性が増加します。また、耐震補強も重要な課題です。しかし、更新を行うには企業債を借りるなど、財源の確保が問題となります。

水道事業の経営に過大な負担とならないように、更新計画を慎重に検討し、みなさまが将来にわたって安心して水道を使用できるよう、努力いたします。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。